

ココンとこ、チョイと値がはるアクセサリーの紹介なので、お金のない読者には口に指の状態だったと思うけど、コンナ物もあるよって訳なので……。今回もテーターパックの自家製発明品を市販化した「フォ

診断室

ト・レコーザ」の登場だ。君たちもカメラを別の角度からアプローチして、自分の撮影状況に合った工夫品を試作してみたら。

絵でも文字でも記号でも写し込めるデータバック

フォト・レコーザ[®] DH-1

撮影データが手書きで、ナント、30字も！

現在一般に市販されているカメラには、データ機能として中級機には日付機構が、一眼レフでは、システムの一部としてのデータバックが、用意されている例が多い。しかし、高級機たる一眼レフのデータバックでも、写しこませる情報は、数桁の数字か文字に過ぎない。

今回の「フォトレコーザ」は、ライトペンを使って、フィルムに直接書き込む方式で、まことにユニークなものである。フォトレコーザには1型と2型があり、1型

はライトペンに折りたたみ式のペン軸が付いているが、2型はシャープペンシルなどの先を差し込んでライトペンを動かす方式だ。

筆者がテストしたのは2型であった。カメラの裏フタに付けられたレコーザ本体の寸法は15×49×112mmで、右側のスライド扉を下にさげるとライトペンと書くスペースが現われる。レコーザの使用は、撮影の前でも後でもよい。ペンで書くと裏フタの左右に位置するランプが点灯する。点灯

中はテーターが写しこめられているわけだ。あまり強く書かなくともOKだ。文字は、メモリー盤に黒く残っていくが、実際のフィルム面上では、カラーではオレンジ色になり、モノクロではシロヌキの文字となる。従って、データが入るところ（左下）は、暗い被写体でなければ、良く写らないという事になる。

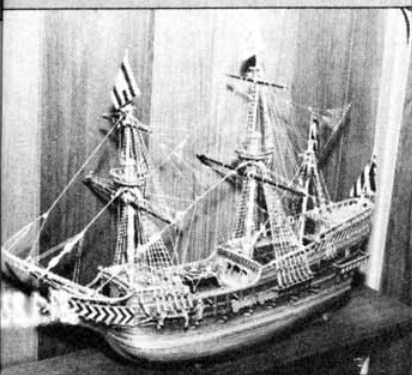
電源は、単4電池2本で、メモリー盤は何回でも消去できる。しかし、一度書いてしまったデータは、そのフィルムに写し込まれてしまうので、書き損じのないよう注意が必要である。

メモリー盤は4cmあるので、慣れれば、かなりの量の文字や記号が書ける（メーカーでは30字とっている）。なお、書いた文字は約 $\frac{1}{6}$ に縮尺される。

文字は圧板に穴を開けて、そこから感光させるようになっているので、この機械の取り付けは、個人では無理で、メーカーである「堀込製作所」にカメラごと持ち込むか、裏フタを郵送して取り付けてもらおう事になる。

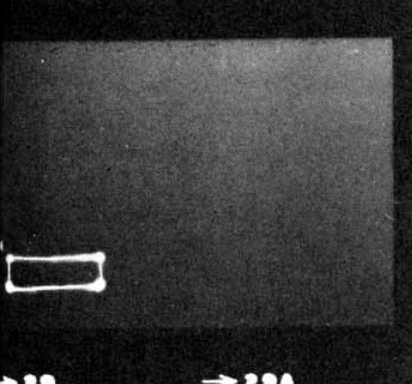
一般のデータバックと違い、自由に書く事ができるという点から、このアクセサリーは学術用などにその真価を発揮しよう。もちろん、一般のアマチュアにも充分利用価値のあるものであり、記録を重視する人にとっては、フォトレコーザの価格は、そう高いものとはいえないのではないかと思う。

これ位の濃度があれば十分に読みとれる。
ニコマートEL ニッコール50mm F1.4 f
11 auto TriX

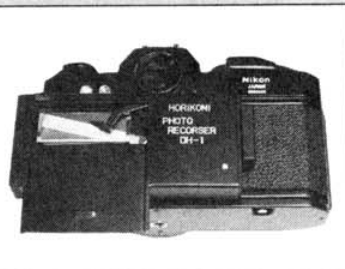


左すみの四角の範囲にデータが入る。

KODAK SAFETY FILM 5063



右の四角い取手を下に引くとデータを消せる、その途中の状態。



フォト・レコーザ主要諸元

寸法…15×49×112mm
メモリー盤面積…40×12mm
フィルム面記録占有面積…8×2.8mm
電源…単4電池2本
メモリー盤…消去自在
記録方法…ライトペン
重量…130g（電池含）
価格…1型=49,000円 2型=48,000円
販売元…堀込製作所 ☎03(474)1910

書いている状態。撮影前でも、後でもデータを書きこむことが可能だ。

